

■ 現状と課題

- ・首都直下地震をはじめ大規模な災害が想定されています。災害時に支援や配慮が必要な人々の「いのち」と「くらし」を支えるためには、行政や社協、専門家に加え、地域住民やボランティアの力が必要です。
- ・近隣のつながりが希薄な地域では、自分の住んでいる地域にどんな人が暮らしているかわからないことから、災害時に孤立してしまう人が現れる恐れがあります。
- ・災害ボランティアセンターの存在を知ってもらい、災害時に困りごとを早期解決するためにボランティアの力を誰もが借りられ、またボランティアとして参加できるよう、平時からの周知や取り組みが必要です。

■ 地域での取り組み

- ・近隣での日頃からの挨拶やちょっとした見守りが、災害時の支え合いにつながるよう、ネリーズの輪を広げます。
- ・地域には避難拠点運営連絡会や自主防災組織があり、地域住民が主体となり行政等と共に訓練や啓発に取り組みます。
- ・社会福祉法人や企業などは、災害時に施設を活用したり、専門性を生かした活動を地域の一員として行います。

■ 練馬区社協の取り組み

- ・災害時の支え合いについて考えるシンポジウムや災害ボランティアコーディネーターの養成講座の開催を通じ、災害に備えた取り組みを行うとともに日頃からの支え合いの輪を広げます。
- ・住民や団体、関係機関と共に災害ボランティアセンターの運営訓練を実施するほか、オンラインツール等の活用、関係者や避難拠点運営連絡会等との連携を強化します。

目指す姿

災害に備えたつながりや
支えあいのある地域



地域でこんな取り組みが広がっています

災害時の支え合いを日頃から

啓発 災害シンポジウム

練馬区の震災対策、被災地における被災地支援の在り方などを学び、災害を風化させない機会としています。また、災害時にもお互いに支え合える地域力の必要性を学び、日頃からのつながり作りについて考える機会としています。



車いすユーザー

Aさんからの気づき

ある雪の夜、外出先からの帰り道で雪に車輪を取られ動けなくなって困っていたところを、通りすがりの人に声をかけてもらい、助けてもらいました。災害時のことを考えると、日頃から困っている障害者を見かけたら声をかけてもらえるとうれしいです。

人材育成 災害ボランティアコーディネーター入門講座

災害時、平時にも増して住民、地域活動団体、練馬区社協、練馬区等が相互につながり協力し合い、地域住民の生活を支えていくために、災害時に活用できる地域資源や日頃からの地域のつながりの大切さを学びます。

また、困っている人のつなぎ役や災害ボランティアセンターの運営など、災害時に必要になることを担い、積極的に活躍できるよう、災害ボランティアセンター立ち上げ・運営訓練への参加や卒業生の交流会も実施しています。

訓練 練馬区災害ボランティアセンター立ち上げ・運営訓練

練馬区災害ボランティアセンターは、練馬区と練馬区社協の協定に基づき設置され、被災による困りごとの受付、ボランティアの受け入れ、災害に関する情報収集と情報発信などを行う拠点です。

練馬区社協は、災害時に備えた訓練を関係機関や地域活動団体、地域住民と共に行うほか、関係者との日頃からの関係づくりに取り組んでいます。



地域の取り組み

練馬区聴覚障害者協会は、練馬区と協定を結び、避難拠点運営連絡会での訓練を行っています。普段関わることの少ない住民と共に訓練を行うことを通じて、お互いにいざという時に困ることに気づき、コミュニケーションの取り方などの課題を共有し、その解決を図っています。

また、顔見知りになれば外で会ったときに挨拶できるなど、お互いの理解と日頃のつながりづくりにもなっています。